

◇編集後記◇

産業衛生学雑誌, Journal of Occupational Health の 3月号をお届けします。年度の区切りにこの1年を振り返ると、やはり東日本大震災とそれに続く原発事故による影響の大きさを様々な面で感じざるを得ません。今回、編集後記を担当するにあたり、過去1年間の内容を読み返してみたところ、すべての号に震災に関する記載がみられました。今もなお、不自由な生活を強いられている方々、その支援に注力されている方々、地域再生・産業振興などに奮闘されている方々、すべての方々のご尽力に敬意を表するとともに、1日も早い復興を祈念しております。また、産業衛生学雑誌では、今も「東日本大震災特集」を継続していますので、職域に限定せず一般生活も含めたあらゆる方面からのご寄稿をよろしくお願いたします（産業衛生学雑誌 2011; 53: A37を参照ください）。

一方で、(震災特集とはもちろん無関係に) 投稿論文を拝見した時に気になることがあります。それは論文のテーマや内容の問題以前に、投稿規定に沿っていない、あるいは図や表の書き方が適切とはいえない論文が散見

されることです。研究を生業としない産業保健に関わる様々な職種の方々がそれぞれのご経験をもとに投稿されることは、すそ野の広いこの業界ならではの、異文化交流のような面白さもあり、また、現場からの発信こそが望まれているともいえます。しかし、論文は読者に主張するところを伝えるための手段です。苦勞してまとめられた成果をより正確によりわかりやすく伝えるためにも、投稿する分野（ここでは、産業衛生学分野）で通用する表現やスタイル、図表の示し方を工夫していただくことが大切だと思います。まずは、投稿前に同じような内容の論文2-3本に目を通していただき、それと似せて図や表を作成し、表現や流れも参考にして本文を書かれることをお勧めします。さらに、可能であれば、研究で生計を立てている方に一読してもらって一層価値の高い論文に仕上がると思います。そのような知人がいない場合には、地域の大学や研究所に相談したり、学会での出合いを積極的に活用したりしてください。産業保健の研究者たちはそのような機会を心待ちにしています。きっと。

(玉腰暁子)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：益島 茂（三重大）

副委員長：樺田尚樹（国立保健医療科学院）、杉森裕樹（大東文化大）、高尾総司（岡山大）、
玉腰暁子（愛知医大）、那須民江（名古屋大）、西田和子（久留米大）、平工雄介（三重大）、
藤野善久（産業医大）、毛利一平（労働科学研）、八谷 寛（名古屋大）

石竹達也（久留米大）、井上和男（帝京大）、岩崎健二（独法労働安全衛生総研）、植嶋一宗（三重大）、梅津美香（岐阜県立看護大）、小笹晃太郎（放射線影響研）、萱場一則（埼玉県立大）、川口陽子（東京医歯大）、熊谷信二（産業医大）、黒沢洋一（鳥取大）、近藤尚己（山梨大）、酒井一博（労働科学研）、佐々木美奈子（東京医療保健大）、菅沼成文（高知大）、田中昭代（九州大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京大）、中村裕之（金沢大）、馬場園明（九州大）、原田浩二（京都大）、東 尚弘（東京大）、福島哲仁（福島県立医大）、堀口兵剛（秋田大）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、三宅達郎（大阪歯大）、村田勝敬（秋田大）、八幡勝也（産業医大）、大和 浩（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、渡邊博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番